

上里町の概要

上里町は、埼玉県の最北部にあり、東京都から 85 km圏内に位置している。東は本庄市、南は児玉町・神川町と地続きで接し、西は神流川、北は烏川を隔てて群馬県と接している。古くから上州・信州への交通の要衝、諸宿への馬継場、あるいは水運を利用した川岸場として栄えてきた。純農村地帯として発展してきたが、経済の伸長と交通機関の発展、さらに地理的な好条件に伴い住宅等が進出してきている。昭和 29 年 5 月 3 日、町村合併促進法により賀美村、長幡村、七本木村、神保原村の 4 村が合併して上里村が誕生、昭和 46 年 11 月 3 日、町制施行により上里町となった。

町域は南北 5.5 km、東西 6 kmで総面積は 29.21 k m²。そのうち、田が約 13%、畑が約 32%、宅地が約 21%を占める。昭和 46 年 4 月 1 日現在の人口は 16,047 人、世帯数は 3,687 世帯であったが、昭和 50 年代から 60 年代にかけて都市計画の策定や駅南開発等、都市化に向けて大きく前進し、平成 15 年 7 月末日現在の人口は 31,388 人、世帯数は 10,622 世帯と、増加の一途を辿っている。今後は人口、世帯数、共に微増傾向で推移するものと見込まれる。

町の交通は、国道 17 号、JR 高崎線、関越自動車道、上越新幹線、国道 254 号が横切り、旧中山道、藤岡本庄線、児玉新町線等の主要幹線道路が町内と周辺市町とを結んでいる。また、JR 高崎線「神保原駅」の上りは大宮・上野・池袋方面へ、下りは高崎方面、新前橋・渋川方面へ通じていて、首都圏や観光地へのアクセスは良好である。平成 16 年に設置される上越新幹線「本庄早稲田」新駅の開業も迫り、さらにアクセスの向上が期待されている。

昔から農業が基幹産業であり、かつては養蚕が盛んであったが、現在は果樹、野菜、米麦が中心となっている。なかでも上里の麦は種子小麦として、その品種の良さが知られている。また、昭和 56 年に整備された上里町南部から他市町にまたがる児玉工業団地は、県企業局が開発した施工面積 108.4ha の大型団地で、数多くの有名企業が進出している。商業は、町内に大型店が進出して活気を帯びつつあるが、近隣に高崎市、伊勢崎市、本庄市等の大きな商業圏があり、購買力の流出や既存商店街の衰退が目立っている。

現在、町は平成 7 年に策定された「第 3 次上里町総合振興計画」の後期基本計画として、平成 16 年度を目標年次とした施策・事業を推進している。既に平成 13 年 11 月に新庁舎を完成させ、今後は関越自動車道上里サービスエリアを利用したハイウェイオアシス構想の実現に向けた事業や神保原駅南土地区画整理事業等を推進していくと共に、新幹線「本庄早稲田」新駅の整備や大学院大学の開設等で今後さらに発展することが期待されている。